

マヤ文明最古の遺跡— 世界複合遺産と住民の共存共栄

■ 実施団体：金沢大学

■ 対象国・地域：

グアテマラ共和国
ペテン県フローレス市の
ティカル国立公園への観光回廊に
位置する6コミュニティ

■ 現地カウンターパート

グアテマラ文化スポーツ省
文化遺産副省ティカル国立公園

■ 協力内容：

- ・住民の人材育成とリーダーの創出
- ・活動の組織化と持続性強化
- ・世界遺産の保護と活用

■ 団体のこれまでの取り組み：

- ・本事業のプロジェクトマネージャーでありマヤ文明研究者の中村誠一教授を中心として、同国立公園での長年に渡る学術調査や遺跡修復
- ・JICA課題別研修「地域資源としてのマヤ文明遺跡の保存と活用」
- ・JICA草の根技術協力事業「世界複合遺産「ティカル国立公園」の保存と活用を通じた住民の生活向上支援プロジェクト」等

■ 事業実施の背景：

前フェーズの事業により、住民の生活向上手段の習得、世界遺産に対する意識変容といった成果が得られたものの、住民グループの組織化、体制強化、生物文化多様性の保全に取り組む必要があった。



グアテマラの課題と成果

課題

ペテン県ティカル国立公園には世界中から観光客が訪れるが、同県は社会経済開発が遅れている貧困県の一つ。これまでの「観光開発」は周辺のコミュニティ住民の生活向上に結び付いていない。

成果①

生物文化多様性および生態系保全研修には、合計で1,468人の住民が参加し、ティカル遺跡の文化遺産・自然遺産に関する知識が涵養。

成果②

住民リーダーを育成し、民芸品製作やローカルガイド養成などの技術研修を実施。関係機関との連携により研修を継続し、活動を組織化。

事業の波及効果



現地の自主的な活動が進展！

- ・木工職人のグループが市役所と連携し、法人化。別のグループも後に続く予定であり、活動の持続性が高まっている。
- ・当初本プロジェクトで企画していた野外体験教育研修を、ティカル国立公園が主体的に企画・実施するように。同研修は児童・生徒向けのため、その家族への影響も期待できる。